

ひまわり



令和4年7月8日(金)

悪いやつがいたもんだ



このところの物価上昇が家計を直撃しています。スーパー・マーケットでの買い物もさることながら、今夏はどれくらいの電気・ガス料金がかかるのだろうかと心配しています。

また、私の住んでいる地域は、車がなければ不便な地域です。ガソリン価格の高騰も深刻な問題です。ですから、少しでも安いガソリンスタンドを見つけると、給油することにしています。

先日、周辺地域よりも、1リットルあたり10円も安いガソリンスタンドを見つけ、満タンまで給油をしました。給油が終わるやいなや、店員さんが私に近づいてきました。そして、車の周りをぐるりと一周すると次のように言いました。

「お客様、タイヤの状態を見せてもらったら、タイヤにひび割れがあるんですよ。ほら、ここを見てください」

指差した先には、タイヤが路面と接する面の外端部分に、細かなひび割れが複数ありました。店員さんは続けて言いました。

「この状態で高速道路を走ると、バースト（破裂）して大きな事故つながるかもしれませんよ。今日はタイヤメーカーの人が来ているで、すぐにタイヤ交換の見積もりをさせてもらいましょうか」

私はバーストと聞いて心配になつたので、見積もりをお願いしました。その結果、大幅な値引き価格を示してくれました。ただし、1週間以内に契約してくれたらという条件でした。

家に帰り冷静になってみると、何かおかしいぞと思い始めました。そこで、いつもの修理工場に行き、ガソリンスタンドでのいきさつを話すと、お世話になっている整備主任さんが次のように言いました。

「このタイヤは2020年製だし、15,000kmしか走っていないので交換の必要ですよ。ひびは、紫外線のあたる場所だからできて当たり前です」

その時点で、間違った情報を伝えられたことを確信しました。

近江国（おうみのくに・今の滋賀県）に拠点を置いた近江商人は、「三方よし」という経営哲学を持っていました。「三方よし」とは、売り手が満足、買い手も満足、そして社会にも貢献できているということです。そうであるためには、嘘偽りのない商売をするという商道徳がなければなりません。この経営哲学を貫いたからこそ、近江商人は栄えたのです。

いくらガソリンが安くても、客を欺く我利我利亡者（がりがりもうじゃ）の店には、誰も行きたいとは思わないでしょう。本当に悪いやつがいたものです。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

